

みんなの笑顔み～つけた!!



編集委員
 平田豊生苑 南海・菊本
 平田保育園 上野・中村
 デイサービス 落合
 和進館保育園 川合・関本
 和進館児童ホーム 原田・田添
 守山豊生苑 茂原

広報

和進

2020年9月 発行

Vol.67



和進館児童ホーム

- 平田保育園
- 特別養護老人ホーム平田豊生苑 (指定介護老人福祉施設)
- 特別養護老人ホーム守山豊生苑 (地域密着型介護福祉施設入所者生活介護)
- デイサービスセンター平田豊生苑 (通所介護)
- 平田豊生苑居宅介護支援事業所 (居宅介護支援)
- 平田豊生苑ふれあい弁当
- 和進館保育園
- 和進館児童ホーム (児童養護施設)

TEL052-501-8820 FAX052-501-6435
 TEL052-505-7201 FAX052-505-7204
 TEL052-793-7770 FAX052-793-7739
 TEL052-505-7206 FAX052-505-7206
 TEL052-505-7263 FAX052-505-7204
 TEL052-505-7203 FAX052-505-7204
 TEL052-791-2808 FAX052-792-5192
 TEL052-793-0122 FAX052-792-5183

社会福祉法人 和進奉仕会

〒463-0062
 名古屋市守山区長栄20番10号
<http://washin.or.jp/>

和進 Vol.67 2020.9.10
 編集・発行人 吉田寛一郎

発行所 和進館ふれあいセンター
 〒452-0832 名古屋市西区平出町 87
 TEL 052-505-7201 FAX 052-505-7204

ちいさなしあわせ

いつもやんちゃな4歳の男の子。公文式学習を終えユニットに戻る場面に出くわすと、嬉しそうに抱きついてきた。そのまま見送ろうと思ったが、彼はそう簡単には玄関に向かわない。地域交流スペースにいる金魚を見に行き、テレビをつけ、ふざけて走り回り…しばらく付き合った後でようやく靴を履くが、向かったのは反対方向。しばらくして私のもとに戻ってきた彼は、一輪の花を差し出した。

「え、くれるの？ありがとう」と受け取ると、私のリアクションには全然興味なさそうに、でもどこか満足そうな様子でユニットへ戻っていった（それでもやっぱり反対方向から）（^-^）

誰が教えたわけでもなく、“きれいだな”と思ったものを摘み、渡したい相手の元へ持っていく。なんて可愛らしい行為だろうと心が温かくなった。

『生きていれば、辛いことも大変なこともあるけど、楽しいこともある』

『幸せになれるかどうか、幸せに気付けるかどうかは自分次第』

そう子どもたちに教えたいと思っているけど…

自分に余裕のない時、結局そのことを子どもたちに気付かせてもらっているなあと思う。

大人になり、『やるべきこと』『やらなきゃいけないこと』ばかり見ているうちに、気付けなくなるものがたくさんあるのだと思う。同じ風景を見ているはずなのに、なんてもったいないことをしているのだろう。

反省してもすぐに忘れて、ついつい見逃してしまう『小さな幸せ』を摘んできてくれる子どもたち。

いつもありがとう。

可愛い笑顔で迎えてくれて

いつも元気で居てくれて

きれいな音色を聴かせてくれて

生まれてきてくれて…

あなた達がいるから、私は今日も頑張ろうと思えます。

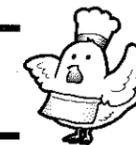


今日もたくさんの“ありがとう”が、ホームの中に咲きますように。

和進館児童ホーム 家庭支援専門相談員 金子 瑞衣



～ 楽しく食育 ～



児童養護施設では親の離婚や病気、また不適切な養育を受けている等の様々な事情により、家族による養育が困難な子どもたちが、家庭に替わる場所として職員と関わりながら生活をしています。「養育」は、整えられた日常生活（衣・食・住）が安定して継続され、子どもと大人との人間関係、信頼関係を築くことで展開されます。そのため、養育の1つである「食育」は子ども達の成長を支えるうえでも大事な一部分を担っています。

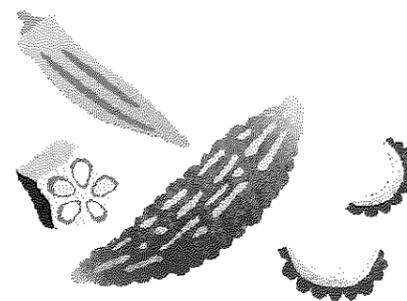
普段、子どもたちと食事をするなかで、今食べている野菜の名前を知らずに食べている子や野菜がどのように成長して実ができていくのかわからない子どもたちがいます。そこで児童ホームでは食育の一環として、子どもたちに少しでも野菜に興味をもってもらえる様、子どもたちの目に付きやすい庭やエントランスでトマト・ナス・ゴーヤなどを育てています。

種を植えた当初は、あまり興味を示さなかった子どもたちですが、芽が出て少しずつ野菜が育つ生長過程を見ていくうちに、「水やりのお手伝いやりたい!」という声や、花が咲いたこと、実が出来たことを嬉しそうに教えにきてくれる子どもたちが増えました。

収穫の際も出来る限り子どもたちに体験をさせて、野菜の形や色、感触などを実際に“目で見て”“手で触れる”ことを大切にしながら楽しんで収穫しています。トマトの収穫の際、待ちきれずに、まだ熟していないあおイトマトを食べてしまった子がおり、「にがーい!」と言っている子がいました。ですが、このような経験も自分たちで育てたからこそできることだと思います。トマトは水洗いし新鮮なまま食べ、ナスなど調理が必要な野菜はユニットで職員が調理します。普段、野菜が苦手あまり食べない子も、自分で育てたから少しは食べてみようかなと思い、苦手な野菜にチャレンジする姿も見られました。やはり、自分たちで育てた野菜は格別で「美味しい!!」と言いながら食べていました。食事中の会話にも「この野菜はどうやって作るの?」や「この野菜の名前は?」と質問してくる子どもたちも多くなりました。

子どもたちと一緒に野菜を育てることで「野菜」にも命があることを知り、「感謝」の気持ちや「命」のありがたみを実感することが出来たと思います。今後も楽しく子どもたちに「食」の大切さを伝えていけるようにしていきたいと思います。

今年はゴーヤとオクラを育てています。大きくなりますように!!!



和進館児童ホーム 田添 紗里奈

新型コロナウイルスがもたらした変化

今年に入りまだ間もない2月。慌ただしくそれは始まりました。

1月のお正月ムードが落ち着きつつある中で、中国の武漢で新型コロナという今までにないウイルス性の病気が猛威を振るっているというニュースが、毎日テレビやネットで話題になっていました。時期的にインフルエンザの流行る頃でしたが、ニュースでは新型のインフルエンザではないと報道されている事、ワクチンや罹患してからの有効な薬がその時点で無かった事等から「怖いね、中国で流行ってるなんて日本に上陸するのは時間の問題じゃない？」なんて日常会話の話題になっていました。そして予想通り、最初の国内での感染者確認。もうそれからはあっという間に日本中に感染が広まってしまうました。もちろん愛知県も例外なく、感染初期の頃は全国でも筆頭に感染者数が多かったのですが、それでもまだ、気をつけなくちゃ、注意しなくちゃ、感染者が出た地域は大変ね、と今思えば身近な他人事でした。

コロナをやっと自分の身近に感じゾツとしたのは、豊生苑からかなり近いショッピングモールで感染者が確認された時でした。初めて自分、家族、友人、職場の仲間、毎日顔を合わせる誰もがいつ感染してもおかしくない状況にいると実感しました。

もうその頃には豊生苑では、コロナ対策が次々に行われていました。

職員に対してはマスク着用、出勤時の検温、住人さんと共にテーブルで食事をする事の禁止と交代制、都度の消毒作業、不要の外出自粛。後には苑が抗菌ウエアを職員に支給し、定める一定期間着用する事となりました。

各種会議は3密を避ける為全て中止、連絡や決定事項等は配布や掲示、ケアプランは置く場所を決め皆で意見を書き込むという工夫がされました。

また外部との接触を出来るだけ控える為、住人さんのご家族さんには電話や郵送便にて面会をお断りさせて頂き、所要の来苑の際は事務所で対応。外部から来て下さっていたサークル活動の延期、1F喫茶の営業停止。

対策が始まってしばらくは出勤する度新しい対策が立てられており、面食らいながらも役職員の方々のその決断の速さと実行力のすごさを感じました。そして、この新型コロナウイルスの恐ろしさが背後に付きまとう影のようで、払いきれない不安を毎日感じました。

このような非常事態の中で、不思議な事に苑で住人さんと向かい合っている時がコロナの脅威を忘れさせてくれる時間でした。街の風景から車が減り、保育園の子供達の声がしなくなり、陽が落ちてもお店の灯りが灯らない静まり返った日常でも、苑に来ると住人さんは昨日と同じ笑顔で今日も元気に過ごしてくれます。外部と遮断されている、悪く言えばそうなのかもしれません。だから正常な普段では、地域との関係性や交流の大切さが重視されています。勿論そうだと思います。何より住人さんがご家族に会う事もままならないこんな日々は早く終わって欲しいと思いました。でも、この豊生苑のフロアの中はコロナが始まる前の穏やかな時間が流れていて、だからこそこの“住人さんの日常”を守っていかなくてはいけないと思わせてくれました。

このコロナによる非常事態は決して歓迎すべき事ではありません。ですが、毎日の生活の中に埋もれてしまっている大切な事に気付く事は出来ました。まだまだコロナの脅威は続きそうですが、折角気付くことができた大切な事を忘れず住人さんと乗り切っていきたいと思います。

介護職員 菊本 治美

「福祉施設は学びの場でもあるのです」

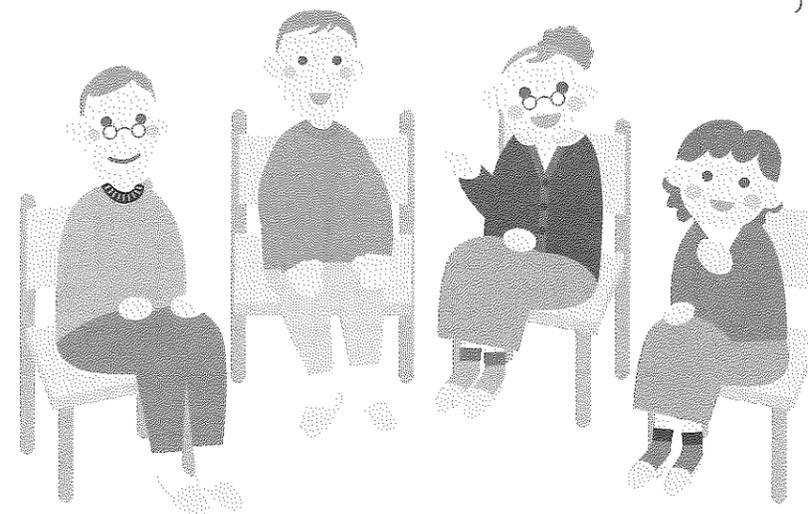
平田豊生苑では様々な実習生を受け入れています。私の勤務する特別養護老人ホームにおいても、介護に関わる勉強をするために職場体験にこられる学生、介護福祉士や社会福祉士という国家資格を取得するために現場実習に来られる学生等、色々です。年齢も様々で10代から30代の方が多く、実習期間は長くて1カ月近く行われます。

どの実習生も皆さん慣れない環境の中、限られた期間内で一生懸命住人さんと関わりを持って学ぼうとされています。特に介護福祉士を目指す10代の学生は自分の祖父母よりも年長であろう住人さんとふれあい、要介護認定を受けた方を支援する側の立場として関わり、介護計画を作成したり、自分のお姉さんやお兄さん、はたまた親以上歳の離れたスタッフとコミュニケーションをとり学ばれています。

そんな学生の皆さんが実習に取り組む姿をみると、頭の下がる気持ちになります。私の様な実習生の親御さんくらいの歳からすると「こんなに若いのに明確に将来の自分の職業を決めて、それに向かって頑張っているのは立派だわ」といつも思います。豊生苑で生活する住人さん達の中には、きっと私と同じことを感じている方もおられるでしょう。また元気のよい実習生が来られるとフロアの雰囲気もいつもより活気があふれるように感じます。多くの住人さんたちはお孫さんの様な歳の実習生とふれあうのがとても嬉しそうで、笑顔もよくみられます。私たちスタッフも実習生と関わっていると、介護の仕事をする上で初心に戻らせていただいたり、最新の介護知識や技術を得たりすることがあります。もちろん良いことばかりではなく住人さんに迷惑を掛けてしまうこともあります。懐が深い住人さんのおかげもありスタッフも色々学ばせて頂いており、住人さんと御家族には感謝しております。

しかし今年度は新型コロナウイルスの影響で施設実習は延期されております。感染防止対策上仕方ないことですが、社会的にも医療や介護分野の現場職員が不足している中、このような状況で医療や介護分野の職業を目指す人達の妨げになるのはとても残念に思います。一刻も早い終息を願い、実習活動の再開を目指しております。実習受け入れが再開された際にはまた宜しくお祈りいたします。

介護職員 南海 宏充



変化と成果

平田豊生苑に勤めて10年目になりました。入社してからずっとホームで介護職員として働いてきましたが、この4月にデイサービスに異動となりました。個人的には大きな変化です。

デイサービスで働くようになったばかりのころは、みんな同じような心配をしてくれました。ホームで利用されている住人さんとデイサービス利用者さんの認知・動作能力の違い、毎日送迎し自宅へ送るライフスタイルの違いについて戸惑いや苦勞はないかということです。

個人的にもその部分の大変さを一番覚悟していました。ところがいざデイサービスで働きだすとそれは面白みに変わります。自分の一挙手一投足に利用者さんからのツッコミが入り、対話やケアへのリアクションも実に多様です。

ある意味でホームの介護は職人的だと思いました。認知機能が低下すれば（低下という表現に抵抗はありますが）排便一つとっても観察と集中が必要です。利用者さんの表情だけでは把握できません。おならが出たな。二回出たぞ。何日便は出ていない？ 薬はいつ何を使っている？ 下剤が朝入ったのか。昨日の夕食は……豆乳スープ！ こんな感じです。観察と集中が必要とされる業務です。

デイサービスとて、利用者さんの認知機能や身体機能に差はあれど、提供するサービスの軸足は変わりません。必要な分だけ入浴・食事・排泄のお手伝いをし生活のニーズを施設の機能内で解決する。これは特別養護老人ホームや通所介護のみならず、高齢者福祉施設あるいは介護現場であればおおよそ同じ仕組みだと思います。

ただ、デイサービスでは生活基本能力への職人的な介入よりも、いかに楽しく安全に頭と体を動かして充実した時間を過ごしてもらうのかを重視しています。日中で一番時間を割く提供サービスは基本介護からレクリエーションになりました。

体制も違います。ホームでは住人さんとのマンツーマン介護が多くの時間でした。職員同士の連携ももちろん必須ですが、デイサービスではほとんどの時間においてスタッフが同時かつ複数人でレクリエーションを行います。送迎の際にはご家族に挨拶をし、何かあればケアマネに連絡します。サービス提供は相互関係の色合いが強くなりました。

もちろんどちらがいいかというお話しではありません。

ただ、相乗効果というものが人間関係にはあります。先日社会福祉学会の機関紙で発表された論文、松本望氏の「養護施設従事者等による不適切なケアに対する効果的な予防策の検討」では、なんと職員同士の仲の良さともいうべき指標が高いと、不適切なケアをまねたり見過ごしたりする可能性が有意に上昇するというものでした。

一方でソーシャル・キャピタルと呼ばれる「信頼や協調性で結ばれたコミュニケーション」が高い組織では職員のやりがいやサービスの生産性、他者からの評価意識といったものが向上することも明言されています。

この両者は何を示すのかと言えば、職員の間関係は「良くも悪くもサービスの質すら大きく左右する」ということです。

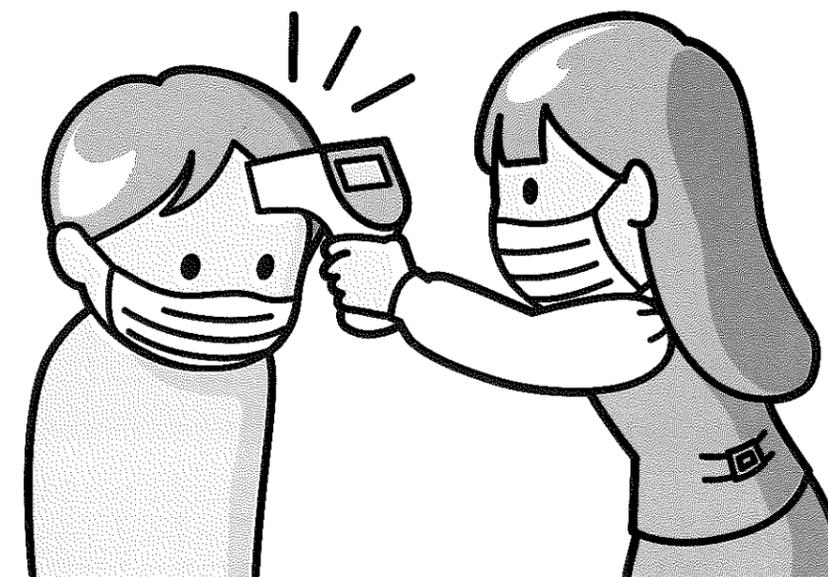
デイサービスではこれまで以上に職員同士や利用者さんとの「相互的なコミュニケーション」が緊密になります。緊密な関係の先に、何が利用者さんや我々職員の利益なのかをきちんと共有しないと良いデイサービスにはなりえないどころか加速的に悪化してしまうかもしれません。冒頭で異動は自身にとって大きな変化ですと述べましたが、劣化も変化のうちなのです。福祉の、苑の目標とコミュニケーションの重要性をあらためて実感しつつ、この異動で僕自身もデイサービスも成長・発展したといってもらえるような成果を出したいと思います

デイサービス生活相談員 落合 大門

検温

毎日がコロナの話題で何かと窮屈な生活になってしまいましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。この数か月でかつてない回数の検温をしました。仕事柄、病院や施設に行く機会が多く、「検温」という関所を通過しなければなりません。その関所の在り方も様々ですが、ある日、新規利用者との面談でとある施設に訪問した際、「熱が高いです。」と言われてしまいました。非接触型の体温計で測定したのですが、何度測りなおしても熱がある。別の体温計でも熱がある。内心ドキドキが止まらず「まさか自分が…」の思いが頭をよぎりつつ「出勤時は平熱だったのですが…」とさりげなくアピールすると腋下測定体温計を手渡されました。測定した結果、自己申告通りの平熱だったので無事に通行手形を手に入れる事ができ関所を通過する事ができました。どうやら測定機器の不調だったようで職員さんの配慮で平熱を証明する事ができました。「測定機器を信じるか信じないかはあなた次第」とにもかくにも施設職員さんの配慮に感謝申し上げます。

平田豊生苑 介護支援専門員 丹羽 雅和



「バイキンばいばい」

和進館保育園では、コロナウイルス対策でとても重要視されている手洗いを子ども1人ひとりと関わりながら行っています。なかなか家庭では手洗い・うがいなどの生活習慣が身につかないのが現状のようです。その為、保育園の集団の中で「僕もやりたい」「私も洗わなきゃ」という気持ちを育てて、病気予防とコロナウイルス予防の習慣を身につけてほしいと願っている今日この頃です。

手洗いをしてほしいときに、つい「バイ菌がいっぱいだから手洗いしようね。」と、子どもに伝えがちですが、目に見えないバイ菌の存在を理解するのは難しいことで、言葉だけでは手洗いの大切さが伝わっていないと思います。

そこで、今回は“手を洗わない子”“手を濡らして終わる子”“水で遊んでしまう子”“泡だけつけて流してしまう子”などが多い2歳児の手洗いに注目して、看護師の田中先生に手洗い指導をしていただきました。

「今から手洗いの順番を教えるよー」と田中先生が声をかけると「なあに？」と集まって来た子どもたち。「ゆびのあいだモミモミ」「おやゆびクルクル」と上手に先生の真似をしていました。



田中先生から話をしてもらった後は、戸外遊び後や給食前など、子どもたちが自分から手を洗に行く姿も見られるようになり、「ゴシゴシ、キュッキュッ」、「モミモミ、クルクル」と田中先生が覚えやすいように声を掛けて下さった言葉を口にしながら、楽しく手洗いをするようになってきました。

これからも、手洗いの仕方が自然に身につくように、一緒に洗いながら手洗いの大切さも伝えていきたいと思っています。

看護師より

いつもと違う洗い方に興味津々の子どもたち。何が始まるんだろうと真剣に聞いてくれました。見よう見まねで、洗い方の真似をしてくれて、『上手だね』と声を掛けるととても嬉しそうにしていました。

これからも丁寧な手洗いを続けていけるように、2歳児クラスだけでなく年齢に合わせた指導を全クラスにしていきたいと思っています。

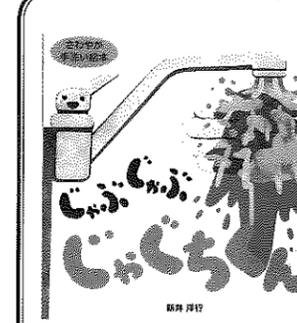
★おすすめ絵本の紹介★

・ぴかぴかおてて



トイレのあとで、砂場で遊んだあとで、そしておやつの前に…。みんないっしょに「ぴかぴかおてて」。手洗いが楽しく行える絵本です。

・じゃぶじゃぶじゃくちくん



手洗いがさらに大事になっていく中で楽しく習慣づけられる一冊かと思います。同じフレーズが繰り返し出てくるので、子どもたちと一緒に言うのも楽しいですよ。

★手洗いが楽しくなるうたの紹介★

- ・シャボンちゃんの手洗いうた
- ・あわあわ手洗いうた
- ・WASH YOUR HANDS

大人も子どもも一緒にきれいに
していきましょう♪

保育園では、手洗い指導だけではなく、絵本を見たり歌を歌ったりして楽しく手洗いが習慣化していけたらと思っています。



今後、コロナウイルス第3波、第4波が来る予想がある中、子どもたちが楽しみにしている運動会、秋まつり…などの行事があります。「密集」「密接」「密閉」の3密を避ける対策を考え、新しい生活様式も取り入れながら、子どもたちが楽しめる工夫をしていきたいと思っています。

保育士 川合 幸美
関本 万澄

おおきなひらたのすべりだい

平田保育園では毎年2月に年長組がお別れ遠足として親子で保護者と雪山へ行く行事があります。昨年度コロナウイルスの影響で雪山に行けなかった年長クラスらいおん組の子どもたち。楽しみにしていた子どもたちのために何かできることをしてあげたいと思い、そりすべりだいを園庭に作りました。

初めてそりすべりだいを見た子どもたちは「すごーい!」「すべってみたい!!」と大喜び。さっそくヘルメットとプロテクターをつけて準備万端です。そりは保育士の手作りということ子どもたちに伝えると驚きつつ、とっても嬉しそう。自分の番がくるまでワクワクしながら待っていました。まずは1人で。次はお友達と一緒に2人で。その次は先生と一緒に3人乗りにも挑戦しましたよ。勢いよくすべったり、時にはコントロールがうまくいかず壁にぶつかったり、それもゲラゲラ笑えるくらい楽しくて仕方ない様子でした。



バランスをとるのが
むずかしいなあ～

先生も子どもも
とっても素敵な
笑顔♪



本物の雪ではなかったけど、晴天のもとお友達や先生と一緒に何度も夢中になってそりすべりを楽しんでいました。雪山に行けなくなったからこそ様々な意見を出し合い、年長最後の思い出が良いものになるよう考えました。子どもたちの満面の笑みを見て、私たち保育士も嬉しく感じました。

そんならいおん組の隣では、他の幼児組の子どもたちも興味津々。「いいなあ～」「やってみたい!」とうらやましそうに目を輝かせながら見ていました。

さっそくらいおん組のおにいさん、おねえさんの真似をして他の幼児組の子どもたちもすべりました!。ほかにもすべりだいの上を全力で走ってのぼったり、くだったり、ボールを転がしてボーリングをしてみたり・・・、たくさんの遊びが広がっていききましたよ。乳児組の子も大きな大きな斜面台をよちよちのぼっていく姿が見られ、とってもかわいいです。



雪山の行事が終わっても遊具の1つとして園庭に残し、たくさんの学年の子どもたちが遊ぶ場になっています。現在もコロナウイルスの影響で様々な行事が変更になることもありますが、ピンチをチャンスに変えて、子どもたちが楽しめることを考え、職員一同「ONE TEAM」となって乗り越えていきたいと思えます。



※「そりすべりだい」は、令和元年2月のそりあそび用に設置しました。
期間を延長して借りているものです。令和2年9月には返却します。

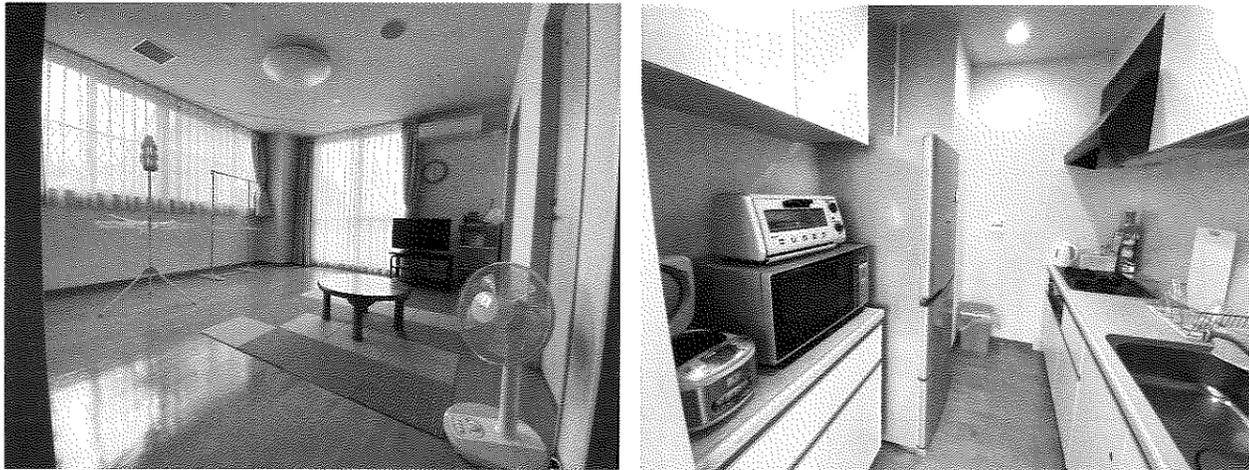
保育士 上野 史帆里
中村 祥子

一人暮らし体験

児童ホームは男女別で1ユニット6名から成る学童ユニットが5つ、幼児15名のユニットが1つの小規模グループケアを実施している児童養護施設です。より家庭的な雰囲気の中で子どもの養育を目的とする為、各ユニットにはリビング、キッチン、浴室、トイレ、個室が整備されています。

そんな児童ホームから今年度で高校を卒業し、社会へ巣立つ子ども達が3名います。高校生ともなると社会に出て一人暮らしが出来る能力を育てる為にアルバイトで社会経験を積んだり、自分で洗濯物を回して干したり、自分で使った食器を洗ったりと“身の回りの事はなるべく自分で”出来るよう日々の生活の中で支援しています。しかし、家庭に近い環境で生活しているとはいえ一人暮らしとは程遠い集団生活の中で生活しているので、一人暮らしに対して不安に思う子ども達も少なくないと思います。そんな子ども達の不安が軽減されたら…と、昨年度から施設内で“一人暮らし体験”を実施しています。

児童ホームの3階に【すずらん】という部屋があり、ユニットと同様にリビング、キッチン、浴室、トイレ等があります。普段はショートステイや保護者の方との面会時に使用しているこの部屋を、一人暮らし体験で使用しています。はじめは2泊3日からで、回数を重ねる毎に日数を増やし、一人での生活に慣れられるように取り組んでいます。



一人暮らし体験の流れ

子どもと担当職員
とでスケジュールの
調整

食事メニューを一緒
に考える

一人暮らしスタート

子どもと担当職員と
で振り返りをする

一人暮らし体験をやってみて…(子ども達の感想)



一人の生活に慣れる事が出来た。食べ物を無駄にしないように保存するのが難しいなと思った。また色々な物を作ってみたいと思う。

快適だった。一人だからといって寂しいとかもなかった。自分で考えてお金(食費)を使うのが難しいなと思った。



一人暮らし体験中に子ども達が自分で食材を購入して調理したもの

単に一人暮らし体験を実施するのではなく、子どもと職員との振り返りの時に良かった点、反省点、今後の課題等を話し合います。“体験が終わればそこで終了”ではなく“そこから始まり”であって、普段の生活に戻ってからも施設を退所後の事を意識して、生活して欲しいと思います。まだ取り組み始めたばかりなので、職員も子ども達に対して上手くアプローチ出来ない部分はありますが、社会に出る事に対して子ども達の不安が軽減されるよう試行錯誤しながら支援していきたいと思います!

和進館児童ホーム 原田 陽和

あなた、見ねーツラだな

十数年前、この広報誌「和進」でトイレ事情について記事を書いた男がいたが、今回は、また別のお話。

人は生涯のうちに、どれほどの時間をトイレで過ごすのだろうか？調べによると約3年間だそうです。それだけの時をトイレで過ごしているものの、その間に何を考え、何を見ているのか。皆さんは如何でしょうか？今日1日を振り返ったり、将来の事を考えたり、ご飯は何にしようか等、人によって様々かもしれません。私自身、自問してみるが全くわからない。ただ、ボーっとしているだけの様な気がします。むしろそういう人の方が多いのかもしれない。なぜそんな事を急に思ったかという、些細なきっかけでした。

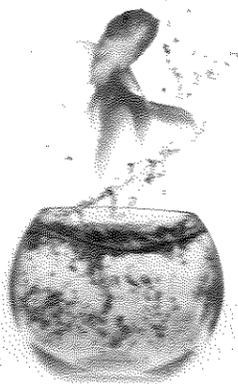
ここ守山豊生苑は、3つのユニットからなる地域密着型特別養護老人ホームです。その内、男性ユニット「みやび」のトイレに、この写真の絵が貼ってあります。普段、何度も入所者である住人さんのお手伝いでトイレを使用していますが、半月の間、絵がある事に全く気が付きませんでした。それは、私自身に余裕が無く視野が狭かった証拠であるかと思います。

この絵を貼ったのは、ある男性スタッフ。私は守山豊生苑に異動して約3カ月が経とうとしていますが、絵を貼ったこの男のことも、あまりよく知りません。強いて言えば口下手で無機質な印象です。しかし、それは誤りでした。そこに絵を貼った意味を考えた時、住人さんの目線で物事を考えられる温かな男であったことに気づきました。トイレに入り便座に座れば、真正面の壁面にこの絵がある。住人さんがそれを見て、何をどう感じているのかはわからない。わからないが、今までとは何かが違うのではないだろうかと思えてなりません。

普段、私たちスタッフは使用しないトイレですが、住人さん方がぐっすり眠っているのを試しに便座に座り、用を足しました。目の前にはこの絵があり、確かに目に飛び込んで来て、何ともいい難い穏やかで静寂の時でありました。その時、激しく扉が開き、そこには住人さんが立っていました。目が合い、互いに悲鳴を上げました。ある夜勤の午前1時半、丑三つ時の出来事であります。

現在、世の中が大変な時です。気軽に遊びに来るのは困難なのかもしれません。しかし、いつかその時が来たら是非、守山豊生苑にお立ち寄り下さい。シャイで温かな男と素敵なトイレをご紹介します。

介護職員 茂原 隆幸



2020年の幕開けは、希望あるオリンピックが日本で開催されることでした。しかし、度重なる自然災害に加え、世界中が「新型コロナウイルス感染」により経済のみならず日々の生活に影響が出ています。不要不急の外出は自粛され感染防止対策としてあらゆることに規制が入り日常生活は一変しました。様々なイベントは中止を余儀なくされました。しかしながら、私たちが携わっている業務は何も変わることなく子どもたち・高齢者を支える日々を過ごしています。子どもたち・高齢者にとって感染症は大敵です。日々を支えているのは、職員です。コロナ禍にあっても必要不可欠な業務に携わっている重要性和責任の重さを改めて考える機会となりました。感染者を支える医療従事者と共に、私たちが第一線に立っていることを自覚し感染防止対策を強化し子どもたち・高齢者を守っていききたいと思います。ピンチをチャンスに変え新しい視点で対策を講じ乗り切って参ります。また6月に「苦情解決委員会」を開催し、法人内事業所の苦情・傷害について、報告・検討をいたしました。

法人本部事務員 杉山 珠美



ホームページ：<http://www.washin.or.jp/>

● 寄付ご報告 ●

以下の方々よりご寄付を頂きました。
改めて心よりお礼申し上げる共にご報告いたします。

株式会社名古屋食糧	合資会社 三河屋本店
社会福祉法人中部善意銀行	有限会社 ダスカジャパンクアテモック
近藤産興株式会社	愛知県信用農業協同組合連合会
名古屋トヨペット株式会社社会貢献推進委員会	特定非営利活動法人かくれんぼ
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	株式会社フジエイ 齋藤 栄成
株式会社クリラボ 朝比奈 邦忠	レストバーAvanti 羽場 弘樹
株式会社ブライト 尾崎 浩一郎	株式会社ロディックコーポレーション 鈴木 俊作
名古屋市農業センター	株式会社カルナック 田井 秀樹
東海アイスクリーム協会	東海ホールディングス株式会社
株式会社 遠東通商	関西電力労働組合東海エリア支部
ティーエヌエス株式会社	クロスプラス株式会社
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	高倉町珈琲名古屋北店
明誠株式会社様 F to F	新美様 美容サロン・サニー 堀部
株式会社ヤマダヤ様 聖霊中学校様	河合道子様
市川浩行様 相澤 恵子様	久保英一様
植田芳樹様 小西 幸浩様	菱田 貢様
鈴木かつみ様 石田 正雄様	竹内 恭子様
金田和久様 宇佐見 恵子様	大谷 倍生様
株式会社メイク 代表取締役 倉知 厚徳様	森 重雅子様
読売新聞東京支社世界の野球グローブ支援プロジェクト	様 石山 景子様

(順不同)

編集後記

現在様々な行動が制限される中、如何に日常生活を楽しく過ごせるのか。改めて生活を支えるということの本質を日々考えつつスタッフ一同奮闘しています。

平田豊生苑 南海 宏充